



Radix

第25回役員会報告

4月26日、東京港区のらでいっしゅぼーや本社会議室にて第25回役員会が開催されました。今回の主な議題は前年度の決算・予算実績報告と、今年度の活動計画です。今年で設立10周年を迎えるRadixの会。年度末の総会、役員改選など、大きな節目の年です。
Radixの会事務局長 竹内 周

2004年度決算報告

2004年度の決算について事務局より報告がありました。2004年度のRadixの会は、事業活動費、運営経費合わせ、63,117千円の支出実績となりました。前年度支出(70,360千円)に対し見かけ上は大きく減っていますが、総会関連支出約6百万を差し引き、次年度繰越の支出の畜産海外視察助成150万を加えると、実質的な活動支出は増加しました。

活動の増加分は主に、農産勉強会関連(実施回数、参加延べ人数1200人超)や、かあちゃん若者集会など交流部会関連の活動が挙げられます。

詳細は別頁の表をご参照ください。

2005年度活動計画

本年の活動計画は、前回役員会(4月26日)で決定した方針に基づきまとめられた原案を、各専門部会討議を経て、本役員会で承認を得たものです。以下におもな計画を報告します。

※詳細については11頁の表をご参照ください。

【農産部会】

昨年のべ参加者が1200名を超えた地域勉強会は、作物ごとのレベルアップを進めるため、地域別作目別でより実践的な勉強会としていきます。同時に土壌分析の方法や栽培の基礎を学ぶ基礎編を全国で年4回開催し、全体の意識向上も進めます。これは今年4月出版となった『有機栽培の基礎と実際』(小祝政明著・農文協刊)をテキストとした勉強会となる予定。小祝さんがこれまでの7年間、教えてくれたこと、生産者の皆さんが小祝さんにぶつけてきた問い、の集大成となるような勉強会にしていきたいと思えます。

また、今後の勉強会の新しい方向性として、農業気象や防除技術、農政全般についての学びも進めます。現在様々な先生に問い合わせ中ですが、防除においてはIPM(統合的防除)、害虫との共存という考え方。農業気象については、ハウスや地域内の微気象から地球温暖化や異常気象全般まで。農政では、自給率や環境保全、地域保全を通じた今後の有機農業関連の政策についてなどを学んでいければと考えています。

例年の地域ブロック集会は、総会開催年にあたるため全体化せず、北海道(ブロック集会&小祝塾基礎編を中心に)、東北(若者集会併催)、九州(かあちゃん集会・若者集会)の3カ所となります。

このほか、5月に会員向けの公開となったホームページ『種の旅』の充実、書籍購入、各種機器購入などへの助成を行なうことが決定しました。

【畜産部会】

今年3年目となる有機畜産への取り組みでは、法制化と前後した集中勉強会を、JAS調査会総会と前後し、6月と10月の2回開催します。また、これに関連する動きを調査する目的の海外視察を行ないます。供給が始まっているフィリピン・リトルタジャン地域の飼料用トウモロコシ生産者との交流を継続します。

また、前年度より状況把握を進めていた飼料の国産・自給化に向けた取り組みを開始します。本年度は予備調査期間として、主に北海道・東北での事例調査と予備試験を行ないます。畜種は当面肉牛と肥育豚。

このほか前年2回開催した北海道での堆肥作り勉強会や、肉質調査・NonGMO分析などを継続します。

【食品・交流部会】

農産部会で進めてきた各地域のかあちゃん・若者集会は、畜産・水産・加工等会員も対象としてカテゴリ横断的に進めます。また、らでいっしゅぼーや会員の皆さんを産地に招く“らでいっしゅ村”企画は、モニタリングを実施し、候補産地を10カ所冊子化、情報発信していくほか、6月より始まったRadicleの会との合同企画“出前研修”を進めます。

このほか今年2回目となる“お魚会議”や、国産大豆を巡る課題について検討していく“大豆会議”を計画します。

【事務局】

今年は各部会活動を運営しつつ、農産の在来品種調査や、今年から開始された畜産の国産飼料関連の調査などに加え、ホームページ『種の旅』ほか情報発信の充実を進め、年度末開催予定の第3回総会の実施に向けた準備を進めます。

総会については、準備委員として正副会長(蓬豪雅吾・高橋祐之・竹並一人・河野光枝・後藤和明・川崎孝文・藤巻啓二)・伊藤幸蔵(幹事:若者代表)・事務局長の9名により検討を進めることが決定しました。

開催時期は2006年2月ごろ、内容として併催でらでいっしゅぼーや会員さんを招いたイベントの開催が検討されていきます。

以上盛りだくさんの計画が進行中です。ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。



ラディックス/第25回役員報告